

地域共生社会の実現に向けた最先端の考え方と手法に出会える2日間!



いきがい・助け合い サミット in 愛知

ご好評いただいた大阪に続き、さらに充実する内容にご期待ください!

2019年大阪に続き2020年の愛知開催ではさらに「**地域共生社会**」の視点から「**地域包括ケアシステム**」や「**新地域支援事業**」はじめ幅広いテーマについて議論を深めます。内容の更なる充実に向け、全体シンポジウム、分科会のテーマやパネリストも続々と決定しています。**生活支援コーディネーター**、**協議体構成員**、**行政**、**社会福祉協議会**、**地域包括支援センター**などの関係者の方にとって集い、学び、議論して互いに結び合える絶好の機会です。

ぜひ、情報共有の場、研修の機会としてご活用ください。



主な内容(予定)

- 全体シンポジウム
- 分科会
第1部から第3部まで
35分科会を予定
(主なテーマは裏面ご参照)
- ポスターセッション
- 全体発表会
- 大交流会

全体シンポジウムテーマ

「幸せな人生と社会に不可欠ないきがいと助け合い」

■ 登壇予定



東京大学特任教授
元厚生労働事務次官
辻 哲夫氏



日本社会事業大学学長・
東京大学名誉教授
神野 直彦氏



総合研究大学院大学
学長
長谷川 真理子氏



津田塾大学客員教授
元厚生労働事務次官
村木 厚子氏



公益財団法人
さわやか福祉財団会長
堀田 力

■ 進行役

実践に役立つ**3つのスゴい!**を体感してください。

① 登壇者がスゴい!

全体シンポジウムと2日間の分科会では幅広い分野の有識者や先駆的な実践者が多数登壇します。最新の情報を本人の言葉で聞き、交流できる機会もあります!

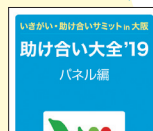
② 内容がスゴい!

30を超える幅広いテーマの分科会や、全国各地から応募いただいた現場の活動を紹介するポスターセッション、全国の仲間とつながる大交流会など、進捗状況を問わない貴重な情報収集の機会として活用できる2日間です!

③ 資料の量と質がスゴい!

お申込みいただいた方全員にお届けする「助け合い大全」は、全登壇者の発言要旨、全国各地から応募いただいた活動を紹介するポスター、さらには各分科会の議事要旨と提言をまとめた全3冊の資料です。たっぷりのボリュームだけでなく、事業の進捗状況に応じた最先端の情報に、大変ご好評をいただいております。

大好評の
資料



「パネル編」
361頁



「ポスター編」165頁



「提言編」190頁

2019年の「助け合い大全」

開催: 2020年**9月29日(火)~30日(水)** 会場: 名古屋国際会議場
お申込み受付開始は4月下旬を予定。定員に達し次第締め切りの予定です。ご準備ください。

(お申込みには資料代としてお一人2,000円をいただきます。開催情報は裏面をご参照)

分科会テーマ、パネリストも続々決定! ご期待ください。

分科会は、今まさに旬のテーマを取り上げ、各分野の有識者や地域で活躍する実践者が多数登壇します!
全国の最新事例を知り、幅の広い考え方や経験に基づく事例などに出会える貴重な機会です!!

第1部 パネル

- いきがい・助け合いは人生にどんな効果を生むか
- 我が事・丸ごとや小規模多機能自治などの地域づくり活動と生活支援活動とをどう結び付けるか
- 市区町村における庁内体制はどうあるべきか
- 2層協議体の構成と役割
- 助け合いのネットワークをつくるにあたり、既存の助け合い活動を生かすにはどうすればよいのか
- 地縁の助け合い活動を活性化するには?
- 共生型常設型居場所をどう広げるか
- 有償(謝礼付き)ボランティア活動をどう広げるか
- 自動車による移動支援をどう広げるか
- 助け合い活動に対する行政の後方支援のあり方
- 医療・介護サービスと生活支援の助け合い活動とのネットワークをどうつくるか
- ケアプランに生活支援の助け合い活動及び本人のいきがい活動をどう取り入れるか

第2部 パネル

- 個人の住宅を地域に開くには、どうすればよいのか
- 自分らしく暮らせる施設の選び方
- 介護におけるエンパワーメントと自立支援のあり方は何か
- 子どもと高齢者の交流や助け合いをどう広げるか
- 認知症の人が地域の人々とともに生きる地域をどうつくるか
- 市民後見人による後見活動と生活支援活動はどう連携するのが望ましいか
- 地域は、地域で孤立しがちな人とどうつながるか
- 企業OBに助け合いによる生活支援活動への参加をうながすにはどうすればよいのか
- 勤労者の助け合い活動参加をどううながすか
- 介護離職を防ぐ地域の連携
- 海外では地域の助け合い活動でどれだけ高齢者の生活を支えているか
- 広域連合で新総合事業・体制整備事業を行うのは適切か(I)

第3部 パネル

- 広域連合で新総合事業・体制整備事業を行うのは適切か(II)
- 心身機能が低下しても持てる能力を生かして高齢者が社会参加する方法とは
- 都道府県は助け合いによる生活支援活動を広めるために何をすべきか
- 住民から信頼される体制をどうつくるか
- 住民のやらされ感を払拭するコツと手法は何か
- 目指す地域像の意義と取り組み方
- 町内レベルのワークショップの手法は何か
- 老人クラブは総合事業・体制整備事業にどう参画するのか
- 大都市における新しい地域支援事業の進め方
- 人口が少ない自治体における助け合いによる生活支援に関する課題と対応策は何か
- 在宅での人生の最終章の過ごし方及び看取りのあり方

(分科会テーマ一覧: 予定)

「助け合い大全'19

パネル編・ポスター編」は今後の活動の大切な資料として活用させていただきます。(民生委員)

全国いろいろな市町村と情報交換し、自分の町のことを知ってもらえ、これからも頑張っていける!! と思いました。参加してよかったです。

(生活支援コーディネーター(SC))

各分野、各地域で助け合いの地域づくり、共生社会の実現に携わっておられる方々が一堂に会するとても貴重な、唯一無二の機会でした。大きなうねりとなっていく予兆と、活動者の方々のエネルギーを感じました。(県庁職員)



分科会もたくさんのテーマがあり、SCとして課題に思っていることをピンポイントで話が聞けた。(生活支援コーディネーター(SC))

参加者の声

事前の配布パンフレットが手もとに届いたとき、想像以上の内容だと感じました。しかし、来てみてビックリ、更に内容は想像を超え、本当に勉強になり、遠方からでも来る価値があると思いました。(地域包括支援センター職員)



生活支援体制整備に関して、気づきがたくさんありました。実際に実践していきたいと思います。(行政職員)

開催概要

定員になり次第
締め切りとなります!
早めに
ご準備ください!

開催日	2020年9月29日(火)~30日(水)
会場	名古屋国際会議場(名古屋市中熱田区熱田西町1番1号)
定員	3000名(予定)
お申込期間	2020年4月下旬~7月(定員に達し次第締め切りとなります)
主な対象	生活支援コーディネーター、協議体構成員、地方自治体、社会福祉協議会、地域包括支援センター等の地域づくり関係者、国、国際機関、NPO・民間団体の関係者等、助け合い、支え合う地域づくりに関係する方
参加費	資料代としてお一人2,000円、大交流会は別途3,000円を予定
後援(2019年の実績)	厚生労働省、全国社会福祉協議会、日本生活協同組合連合会、全国老人クラブ連合会、Jリーグ等
主催	公益財団法人さわやか福祉財団 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館7F
お問い合わせ	事務局 内田 電話: 03-5470-7751